

Hop Step Jump

7

児童生徒理解を深めるために②

NOS アウトドアスクール

ハートプログラム体験から

初任研第 6 回児童生徒理解を深めるために②は、新規採用養護教諭、事務職員の皆さんも参加し、豊泉家千里体育館で行われました。今年も能勢アウトドアスクール理事・育成指導部長今井正裕先生をはじめ、スクールマスター奥義博先生、インストラクター小井手桂祐先生にお世話になりました。

素直に楽しかったです。自分のクラスに活用していきたいと思いました。子ども達同士でやると、各学年各クラスで課題があると思うが、集団づくり、クラス作りに活かせるなあと思いました。このゲームを通して相手の事を知り、仲良くなれるって素敵ですね。

学校が夏休み入ったにもかかわらず、先生方はホッと一息つく間もなく、臨海学舎やクラブ活動、さまざまな研修や発表などが目白押しです。そんな中での研修ですが、毎年とても楽しく、ためになると好評をいただいています。はつらつと笑顔で取り組む皆さんの姿を見る事は私たちの楽しみでもあります。

人に声をかけなくては、交流しなくては…という思いを持つことなく楽しみながら、自然と交流ができるので、楽な気持ちで楽しめました。ゲーム感覚で人との距離感を縮めていけるので学級開きや長期休暇明けなどの活動に取り入れていくことで、あたたかい雰囲気を作れると感じました。ハートプログラムが簡単なものから難しいものへという流れで構成されていることで、班や周囲の人と協力することがとても自然に出来、参考になりました。また、学級経営のネタとして覚えておいて活用できるようにしていきたいと思います。

ハートプログラム(HRT プログラム)とは、ヒューマン(Human)リレーション(Relation)トレーニング(Training)の略称で、能勢アウトドアスクールで開発された人間関係トレーニングプログラムです。

初めて顔を合わせた先生方と、色々なアクティビティをするうちにまるで初対面ではないかのような気持ちになって、とても楽しい時間でした。初めて体験するアクティビティがとても多くて、勉強になりました。

お互いの名前を呼び合うアクティビティ、グループを作るアクティビティ、五感を研ぎ澄ませ、個人の頑張り全体の結果に結びついていくアクティビティ、話し合い、声を出し合ってお互いの気持ちや動作を合わせるアクティビティ等々。目的に応じてプログラムを組み合わせ、上手に目標を設定することで、どんどん個人や集団の意識が高まっていきます。そこにはもう「もっと集中しろ」とか「もっとがんばれ」とかいう声かけは必要なく、自然に集中することの大切さや、チームワークの大切さや気持ちの良さを感じることができます。

「ゲームと呼んでいるけれど、ゲームではなく、アクティビティです。」という初めの言葉の意味が終わってみてわかった気がします。ただ勝ち負けにこだわり、そこを楽しむものではなく、その要素も若干含みながら、関わり方やつながり方を身に付け、考えていける活動だと思いました。さらに指導者側にとっても、子ども達同士のつながり、様子、子どもたちの中での役割等を見る、知る機会になると感じました。手軽に取り組みめるものばかりだったので、2 学期から早速使ってみようと思います。ルールを明確に、意図をしっかり持って実践していこうと思っています。

ゲームを通して、リーダーシップを学び、ルールの大切さを学び、人とのかかわりの大切さや素敵さを自ら学んでいきます。「楽しい！」とか「やった！！」などの感情もさらに学び続けようとする原動力になります。

先生のフォローで、誰も嫌な気持ちになることなくゲームができたと思います。ルールの徹底はとても大切だと感じました。普通の自己紹介ははずかしくても積木自己紹介などの遊びを取り入れると、とても安心してできることがわかりました。大人でもとても楽しめたので、学年に合わせてゲームやっていきたいと思います。

このプログラムは大人の集まりにも有効です。PTA の集まりや学級・学年懇談等で応用してみてください。「楽しい」思いを共有できれば、学校の応援団になってくれるはずです。保護者同士のつながりは学校の財産です。

さて、こういったアクティビティを紹介する書籍はたくさんあります。ネットでも「プロジェクトアドベンチャー (PA)」で検索してみてください。この研修をきっかけに新しい技を身に付けよう！！